

校長室の窓から 195

080218 5年生の子供たちと歩いた大自然

5年生の雪上体験学習の引率で国立立山青少年自然の家に行ってきました。午前中は「かんじきハイク」、午後は「雪像づくり」というプログラムです。

かんじきを履いてアップダウンのある周辺の野山を巡りましたが、大自然ならではの発見がたくさんありました。



まず、動物の足跡がたくさんありました。シカのような4つ足動物のものもあれば、ウサギかタヌキかキツネ(!?)らしき小動物のものも。男の子たちは、たまたま雪中に空洞(スノーホール)ができているのを見つけ、そこに動物が隠れているのではないかとはいっていました。

また、枝の折れた樹木の幹から、樹液が垂れ落ちているのを発見したり、朽ちた枯れ木に、おびただしい数のキノコが寄生しているのを発見したりなど、子供たちの目線で自然の様々な姿に心を動かしていました。



午後は、グループごとに雪像づくりをしました。どのグループも協力合ってアイディアいっぱいの雪像をつくりあげ、これもたいへん楽しかったです。

5年生のみなさん、この雪上体験で深めた友情やチームワークを、ぜひこのあとの学校生活に生かしてってくださいね。



愛と信の仲よしこよし

中太閤山小学校長 堀かおり